

ほのぼの

第15号

平成19年
3月

発行

神戸市須磨区戎町1-2-3
TEL 078-732-5209

信行寺門信徒会

弾圧の波にもまれて

住職

親鸞聖人が念仏停止の法難により越後へ配流（はいる）となられてから今年で八百年となります。



居多ヶ浜・越後へ流罪となつて
上陸された場所と伝えられる。（新潟）

承元元年（一一〇七）二月上旬時の権力者である後鳥羽上皇は、法然上人の主宰する専修念仏教団を不当にも弾圧されました。親鸞聖人三五歳、法然上人七五歳の時のことです。

法然上人の念仏教団が隆盛なると、旧仏教教団は危機感を抱き、お念仏をやめさせようという動きが、比叡山や奈良の僧侶たちの間に起こりました。

それで、元久二年（一一〇五）二月一〇日、興福寺は、九カ条の奏状を朝廷に提出して、専修念仏の停止と中心人物の処罰を執拗に求めてきました。

親鸞聖人が法然上人から「選択集」の書写を許され、肖像を写し終わつたころのことです。

死罪の人四名、流罪の人八名でした。

法然上人は土佐へ流され、親鸞聖人は越後に流されました。聖人は船で越後の居多の浜に上陸されたようです。京の都と違って、どんよりした重苦しい日本海の空と海を見られた聖人のお心は、どのようなものだったでしょうか。察するにあまりありません。

「ただ、お念仏の道だけが唯一助かる法である。他の修行は不要だ」という立場は、旧仏教が否定されると同時に、旧仏教に支えられていた国家体制が根本から揺らぐことになりました。それで弾圧ということになったのです。

五年後には赦免になりますが、この越後での体験が聖人の原点にあります。「僧にあらず」とは、朝廷の権力によって、僧の身分を剥奪された事実をさします。「俗にあらず」とは、仏の法に反して生きる俗人でもない。真の仏弟子としてお念仏の道を生きていくという決意をあらわしています。このことをわたしたちはどのように受け止めているでしょうか。もう一度わが身に問うてみましょう。

報恩講



浅井成海先生

私たちのように煩惱具足の人間は、苦しみや悩みに遇いますと、なぜ私だけがこのようなめに遇うのだろうかと思惑をこぼしますが、それは我（が）があるからであります。我とは、己にとられること、我執（がしゅう）ともいいますが、私が今ここに立つてお話する時も我が起つてまいります。良いお話であったと思われたい、褒められたいといった我であります。我を捨てるといふことは容易なことではありません。捨てようと思つても捨てられるものではないのです。我執というものを乗り越えていかねばならないのです。自分一人の力では乗り越えていくことはできません。では何を依り所にするか、それはお念仏なのであります。

（浅井成海師）

平成18年12月16日・17日の2日間に亘って、信行寺の報恩講が勤修されました。16日は浅井成海師、17日は信行寺住職と報恩講にふさわしいお話でした。以下ご両師の法話の一部をご紹介します。（森本記）



住職

私たちは死ねばどうなるのか、どこへ行くのか、何も分からんというのには闇の世界にいるからなのです。しかし死後の世界を示されて、それは仏の世界であるという。このことは、人生に明かりをみつけて生きていくという大きな目的をもつことではないかと思うのです。

芹沢さんという91歳で亡くなった方が、「朝目が覚めたら、ああ生まれたと思ひ、夜寝る時は死ぬと思ふ。毎日が一歳である。毎日が新鮮なところで学ばせてもらう。」といつておられます。毎日愚痴や不満で暮している人は、この世界が見えてきません。知識では見えてこない世界があるのです。

（米田住職）

出合い

坊
守



仏前結婚式をあげて

この度、正月元旦に信行寺の三男秀爾が結婚式をあげました。彼は現在、東京都新島村の式根島で小学校の先生をしています。東京から船で十時間以上もかかる島で、海が荒れると船が動かないようなところですので、予定がたちませんでした。お正月に帰るところということで、急遽、両家の家族だけで、式をあげたようなことです。

三男は阪神大震災をわたしたちと共に体験し、揺れる



空城ちゃんもお手伝い

青春時代の中でいろいろ悩み、迷い、考えることも、多かつたようです。今まで口数の少ない子でしたから、なかなか気持ち伝わってこないこともありました。しかし、この度の結婚式で自分の思いを述べてくれました。今まで自分が生きてきた思い、両親、兄弟と、お世話になったすべての人との出会いに感謝している気持ち、さらにこれからの決意をはっきりと言ってくれました。その言葉の中には「阿弥陀さまの大いなる力にいただけて安心しきっていられる自分が幸せである」と感じていることが、とてもうれしく、涙をこらえて聞いていました。

これからは、二人で支え合って生きていき、「出合えてよかった」といえる生き方を歩んでくれることを念ずるばかりです。

今年の参拝旅行

越後の親鸞聖人ご旧跡を訪ねます

毎年恒例の旧跡参拝、今年は、四月十九日に親鸞聖人が法難によつて流罪となられた越後を訪ねることになりました。

越後において親鸞聖人がどのような感慨を持たれたのか、同じ風土に身を置いて当時を偲ぶことができるのではないかと思います。本願寺資料研究所の山田雅教氏が、次のように紹介されております。

「JR直江津駅から歩くと三十分ほどでしょうか、流罪になった親鸞聖人が上陸されたと伝えられる居多ヶ浜にです。きれいに整備された公園の見晴台からは、紺碧の日本海が臨めます。その公園の西側の慧眼門と名づけられた小門をくぐると、居多ヶ浜記念堂と見真堂です。

見真堂の八角形のお堂には、親鸞聖人の等身大の坐像が安置されています。その横に建つ居多ヶ浜記念堂には、正面に真宗大谷派第二十四代・闡如上人の筆になる六字名号、向つて右に親鸞聖人の御影、そして左に妻・恵信尼公の御影が掛けられています。

居多ヶ浜記念堂から少し歩くと、居多神社や、五智国

分寺などがあります。どこへ行つても親鸞聖人の銅像が建てられていて、宗教宗派を問わず、聖人がこの土地の人々にいかに慕われているかを窺うことができます。近くには本願寺国府別院もあり、平成十九年には越後伝道八百年のご法要がお勤まりになります。そうしたご縁に、一度居多ヶ浜にお出かけいただいてはいかがでしょうか」
と。(森本記)

参拝旅行ご案内

日時 平成19年4月19日(木) ～ 4月20日(金)

行程 居多ヶ浜 — 竹之内草庵跡 — 国分別院

恵信尼公廟所 — 浄福寺 (川越の名号)

宿 泊 赤倉ホテル (赤倉温泉)

※ お一人でも多くのご参加を

お待ちしております。

涙あふれて

聖人の時代と現在では、比較にならないほど変わっておりますが、ここで数年暮らされた宗祖のお気持ちの片鱗でも感じることができれば、有意義な旅行になります。

平成十六年二月一日、信行寺護法会の『蓮如上人御一代記聞書』の法座でお招きした宇野行信師のお話で、この地を訪れられた感想をお聞きしました。

師は先年お亡くなりになりましたが、その時のお話が強く印象に残っておりますのでご紹介します。

「私は去る一月の二十六日、二十七日(平成十六年)の二日間をかけて、新潟の直江津に行つてまいりました。ここは親鸞聖人が越後に流罪になった所です。この寒いのに何故そのよ

うな所にと思われますが、前に訪れた時は春でした。雪もなく波も静かで、青い草も生えて、なんやこんなところかと思いましたが、この度は雪が積もつて日本海の波が激しく岸を打つておりました。居多ヶ浜(こたがはま)と云いまして、聖人が船で上陸



された所でしたが、雪が積もつて何も見えませんが、展望台があつたのですが、そこへも行けませんので荒涼としたあたりの風景を見ておりました。私の眼に涙が溢れてきました。このような所に流されて、六年の間どのような思いで過ごされたのか。一日一膳の米と水、過酷な風土

にあつて、なお真宗の教義を説き、衆生を救わんとされた聖人の姿に、胸の張裂ける思いがしたので。私の門徒三人と来たわけですが、私はその人たちに泣いている顔を見られたくありませんので、あつちこつちの風景を眺めているように装つてごまかしましたが、見ると三人共泣いておりました。あとで『ご院さん、ええとこに連れて行つてもらいました』と礼を云われました。(森本記)

「居多ヶ浜記念堂」へのご参拝





書初展
入選おめでとう！

1月18日から21日まで、神戸市立小・中学校の書初展が「そごう神戸店」で開催されました。この書初展の出品作品は、各学校で選抜された優秀作品が出品され、子供達のアこがれの展覧会です。



この展覧会に小学校2年の信行寺住職の孫さん「空城君」と門信徒会「林正子さん」のひ孫「紺谷梨央さん」が入選されました。

『本山念仏奉仕団

二十回参加賞をいただいて』

長井輝子



昨年十月信行寺年間行事の一つ本山念仏奉仕団が一泊二日の日程で行なわれました。お寺はこの行事に参加二十五回目の年に当り受賞に至りました。個人的なことになりませんが拙宅は昨年三十年来の旧宅を息子ファミリーとの二世帯住居に改築中で私共夫婦は馴れない賃貸マンションにての仮住いでした。

この年が念仏奉仕二十回目の参加となり何とも不思議なことでした。昭和五十九年に初めてご縁を頂き以後二十年間欠席もなく毎年参加させて頂いたことに今更乍ら驚いております。自分の体調は勿論、家庭又それに伴う凡ての条件が保たれていての上になりたつた上での継続。唯々感謝々々です。

ちなみに信行寺も阪神大震災の後、平成八年から十年までの三年間はこの行事参加を中止されました。改めて継続のむずかしさ有難さそして自分だけの力ではない目に見えない何かに支えられていることを痛感しています。



合掌

信行寺行事予定とご案内

春の彼岸法要

三月二十四日(土)午後二時～

法話 住職

二十五日(日)午後二時～

法話 藤実無極師

第六回 門信徒会総会

四月二十八日(土)

午後二時～四時

おつとめ 総会 法話

門信徒会会員の皆さま、年に一度のことです。できる限りおこし下さい。

くくくくく

◎尚、19年度年会費(千二百円)ご納入の程、お願い申し上げます。

花まつり

四月八日(日)

午後一時より

おつとめ、おはなし、

楽しい手品

二時より

法話・住職



ご本山への

親鸞聖人750回大遠忌懇志は

二月末現在、長井瑛治様他

三十三名のお方が進納され

ました。尊いことです。

編集後記

昨年の報恩講では、光輪(こうりん)ちゃんも新調の法衣で参拝者へのご挨拶▼子供の成長をみておりますと、月日の経つ早さを痛感します▼小学校入学がついこの間と思っておりましたのに、空城(そらき)ちゃんは今三年生になります▼父君と一緒に読経する姿はいじらしく、ひとときわ声高くなるとなえる念仏に、凍りついたような緊張をおぼえます▼孫の成長を見守る住職の慈顔はこの上なく、三代後の信行寺も安泰と、参拝の皆さんも大喜び▼新春の法座では「今年もよろしく願います」と、お兄さんに負けず、光輪ちゃんも大張り切り

(森本 記)